

日米中銀トップの記者会見に注目

中央銀行会合プレビュー

28～29日のFOMC、基本シナリオは据え置き
市場に残る利上げ警戒

30～31日の日銀会合、基本シナリオは据え置き
財政拡張とインフレ懸念で利上げ加速の思惑

	FOMC (米連邦公開市場委員会)	日銀金融政策決定会合
 政策金利	据え置き (3.50～3.75%) が基本シナリオ - インフレは落ち着き、労働需給の逼迫感は乏しい - FRB高官は「当面は様子見」が中心	据え置き (1.00%) の公算大 - 日銀は円安や物価への警戒感を示す 9月利上げへの思惑が強まるも、確度は限定的
 経済見通し	経済は緩やかに拡大、物価は穏やかに上昇 - ベージュブックで全12地区中11地区が拡大 - エネルギー高の波及は一服、コア物価は落ち着き	財政拡張とインフレ懸念が根強い - 政府の大型投資枠、財政拡張への懸念強まる - 原油高、円安、海外金利上昇が長期金利を押し上げ
 記者会見	先行き指針は示さず、追加指標を待つ姿勢 - ウォーシュ議長は「インフレ高止まり許容しない」 - 利上げの可能性を完全には排除できないとの警戒	追加の材料は限定的との見方が大勢 4月以来の記者会見も、早期利上げ期待をつなぎ留めるのは難しいとの見方
 市場の反応	利上げ確率は約4割、反対意見の可能性も 7月会合で0.25%利上げの確率は約4割 2名程度が利上げを主張する可能性 (JPモルガン)	長短金利差は縮まらず、スティープ化続く 2年-30年債スプレッドは拡大 (2.447%→2.463%) - 超長期債への売り継続、利上げ加速への警戒も

 政権トピック	米国 (トランプ政権) トランプ大統領、FRBに利下げ要求 - 米国の金利は世界で最も低水準であるべきと主張 - ウォーシュ議長を「素晴らしい人物」と評価 - FRB理事会の他メンバーは「極めて政治的」と批判 	日本 (高市早苗政権) 「骨太ショック」海外の教訓：財源なき成長・分配、市場が修正迫る - 海外でも財源なき政策は市場が修正 (欧州・英国・韓国・アルゼンチンの例) - 成長・分配・財政規律のトリレンマに直面、インフレ下では一段と難しい - 財源は補助金・租税特措・税外収入の見直しで賄う方針も実現性は不透明 
--	--	--

 ポイントまとめ	 FOMCは据え置き見通しが優勢も、市場は「サプライズ利上げ」に警戒 インフレ・雇用は落ち着きつつあるが、FRBは姿勢非開示。利上げ確率は約4割と市場の警戒は残る。	 日銀は据え置き見通しも、財政拡張とインフレ懸念で長期金利は高止まり 早期利上げ期待は強まるも、追加材料は限定的。財政拡張や外部環境を背景に、イールドカーブのスティープ化が続く。
---	--	---